

☆☆☆☆「どうしたらよくなるか考え行動する」☆☆☆☆

## 第24号(最終号)



# 上小だより

上野原市立上野原小学校  
発行日 令和4年3月25日  
発行者 校長 大場 卓  
TEL 0554-62-3104

## 卒業式、修了式、離任式・・・

3/18(金)に第148回目の卒業証書授与式がありました。コロナ禍というこれまでに経験の無い学校生活の中で、がんばってきた卒業生の節目の式が、無事に挙行できたことは何よりだったと思っています。式辞でもお話ししましたが、私は「この世の中のすべての出来事はきっといつかいい日のためにある」と信じています。今、目の前にあるコロナ禍という困難も、いつか振り返った時に「ああ、この日のためにあったんだなあ」と思えるようにしていきたいと思ってきました。コロナ禍は今までに無いことの連続でした。その度に、どうしたらよくなるか考え仲間と共に行動してきました。うまくいかないこともたくさんあったと思いますが、様々な困難を乗り越えるために仲間と力を尽くしてきたことは、私にとっても、子どもたちにとってもきっと大切な財産になっていると思います。子どもたちには、これまでの経験を生かし、いつかいい日のためにがんばってほしいと思っています。



卒業証書授与式の様子・・・



先生方に送り出される卒業生・・・

3/25(金)の朝、本年度の修了式がありました。修了式は1年を振り返り、新しいスタートに向けて備えるためのものです。これまで、子どもたちに折あるごとに「どうしたらよくなるか考え行動しよう」という話をしてきました。式の中でも、今年1年を振り返ってもらいました。いろいろなことがありました。子どもたちには、「よくなろうとする行動は、遅すぎるということはないけれど、実際に行動するには勇気がいる」という話をしました。そして、がんばる誰かを支えることが自分を支えることにもつながるということも話しました。これからの日々がすべての子どもたちにとって明るいものになることを心から願っています。

午後には離任式もありました。詳細は別紙でお知らせしましたが、別れとはいつも寂しいものです。でも、それは新しい出会いのために必要なことでもあると思います。上野原小学校で過ごした時間はどこへ行っても変わりません。これまでの経験をこれからは生かしながら、がんばっていききたいと思います。転退職した職員一同、これからの上野原小学校も子どもたちにとってたのしい学校であるように願っています。今までありがとうございました。

裏面に続く・・・

## 教員生活の結びにあたり・・・

本年度末をもって定年退職となります。過日、遠方の先輩の先生が私が寄稿した原稿を読んでお電話をくださいました。ブータンの話に感動した・・・とってくださいました。言葉をかけていただけるのはうれしいことです。これから先、どのような人生になるのかわかりませんが、誰かのために役に立つことができたらいいなと漠然と思っています。教員生活の最後に、私が寄稿した「幸せということ」という文章を載せさせていただきます。

以下転載\*\*\*\*\*

「幸せということ」

私の友人に作家をされている方がいます。以前は養護学校の教師をしていました。過日その方から聞いた話が心に残っています。ブータンに行った時の話です。女の子や男の子に「いじめはありますか？」と尋ねたそうです。「いじめってどんなこと？」と聞かれ、「一人だけをのけものにしたり、ものを隠したり、ひどいことをみんなで言うこと」と言うと、ブータンの少年は、不思議そうな顔で「どうして？なんのためにそんなことをするの？」と聞いたそうです。「そんなことをしたら、自分のことが好きになれない。好きになれなかったら、誰のことも幸せにできない。自分も幸せに生きられない。どうしてそんなことをするの？」と尋ねられたそうです。そして、「ブータンには泥棒がない」とガイドさんが言っていたそうです。「どうして？」と尋ねると「そんなことをしたら、自分が恥ずかしいでしょう。そしてそんな自分を誇れない」と話してくれたそうです。私も昔、「誰かが見ていなくても、お天道さんが見ておられる」と大人から聞いた覚えがあります。私はブータンに行ったことはありません。でも、この話を聞いて行ってみたくくなりました。

昔、アフガニスタンやインドに寺子屋を建てる活動に関わっていました。現地の子どもたちは、朝から夕暮れまで40度近くにもなる過酷な状況の中で12時間も働いた後、眼を輝かせて学校に来るのだそうです。そして、「学ぶことがうれしくて、たのしくて仕方がない」という表情を見せてくれるのだそうです。

世の中にはいろいろな人がいて、いろいろな考え方があって、いろいろな行動があるけれど、みんなが幸せを感じるためには、自分のことが好きになれるように生きていくことが大切なんだろうなと漠然と思っています。私は自分自身に自信は持てないけれど、子どもたちのために決断しなければならぬことがたくさんあります。だからこそ、いろいろな方の考えや生き方に触れていくことがとても大切だと思っています。コロナ禍で、これまで経験したことのないことがたくさんありました。その度に子どもたちや仲間がたくさん力をもらってきました。コロナ禍は決していいことではないけれど、今回、学んだことや得たこともたくさんあったと思っています。コロナ禍を禍に終わらせないために、できることをぼちぼちがんばっていきたいと思っています。(上野原市立上野原小学校長 大場 卓)\*\*\*\*\*転載終わり

これまで出会ったたくさんの子どもたちや仲間にも力をもらい、保護者の皆様、地域の皆様にも支えていただき、とても幸せな教員人生を送ることができたと思っています。生まれ変わってもまた教員になりたいです。長い間ありがとうございました。これからも学校を支えていただけますよう心からお願いいたします。

※学校だよりや学校の様子などはホームページでもお伝えしています。「上野原小学校」で検索してご覧いただき、子どもたちとの会話のきっかけにいただければ幸いです。